物質名	2-プロポキシエタノール		DB-43
別名	エチレングリコールモノプロピ	構造式	
	ルエーテル		
CAS 番号	2807-30-9	H,	СС
PRTR 番号	_		,
化審法番号	2-2424		
分子式	$C_5H_{12}O_2$	分子量	104.15
沸点	149.8°C <sup>1)</sup>	融点	_
蒸気圧	3.12 mmHg(25℃、実測値) <sup>2)</sup>	換算係数	1 ppm = $4.26 \text{ mg/m}^3 (25^{\circ}\text{C})$
分 配 係 数 (log P <sub>ow</sub> ) 0.08 (推定値) <sup>3)</sup>		水溶性	3.17×10 <sup>5</sup> mg/L(25℃、推定値) <sup>4)</sup>

### 急性毒性

動物種	経路		致死量、中毒量等
マウス	経口	$LD_{50}$	1,774 mg/kg <sup>5)</sup>
ラット	経口	$LD_{50}$	3,089 mg/kg <sup>5)</sup>
マウス	吸入	$LC_{50}$	1,530 ppm (6,517.8 mg/m <sup>3</sup> ) (7 hr) <sup>5)</sup>
ラット	吸入	$LC_{50}$	9,060 mg/m <sup>3 5)</sup>

# 申、長期毒性

- ・雄ラットに 0、195、390、780、1,560 mg/kg/day を 6 週間(5 日/週)強制経口投与した結果、780 mg/kg/day 群で 1/10 匹、1,560 mg/kg/day 群で 2/10 匹が死亡した。195 mg/kg/day 以上の群で赤血球数、ヘモグロビン濃度の減少、390 mg/kg/day 以上の群で脾臓及び肝臓重量の増加、780 mg/kg/day 以上の群で腎臓重量の増加、平均赤血球容積 (MCV)、平均赤血球色素量 (MCH)の減少、1,560 mg/kg/day 群で体重増加の抑制を認めた。また、390 mg/kg/day 以上の群の全数で試験期間を通して血尿を認め、195 mg/kg/day 群でも 2/10 匹に散発的な血尿がみられた <sup>6)</sup>。この結果から、LOAEL を 195 mg/kg/day(ばく露状況で補正:139 mg/kg/day)とする。
- ・ラットに 0、425、850、1,700 mg/m³を 14 週間 (6 時間/日、5 日/週) 吸入させた結果、850 mg/m³以上の群の雌雄で赤血球数、ヘモグロビン濃度の減少、雌で血小板数の増加、850 mg/m³以上の群の雄及び 1,700 mg/m³の雌で腎臓重量の増加、850 mg/m³以上の群の雌及び 1,700 mg/m³ 群の雄で尿潜血(1,700 mg/kg/day 群の雌雄では赤色尿)、多染性赤血球症、脾臓重量の増加、1,700 mg/m³群の雌雄で網状赤血球数の増加を認めた。850 mg/m³以上の群の雄の脾臓、雌の尿細管でヘモジデリン沈着を認めた 7。この結果から、NOAEL を 425 mg/m³(ばく露状況で補正:76 mg/m³)とする。
- ・ラットに0、425、850、1,700 mg/m³ を14 週間(6 時間/日、5 日/週)吸入させ、神経系への影響を調べた結果、425 mg/m³以上の群で機能観察総合評価法(FOB)の結果や神経系の組織検査でばく露に関連した影響はなかった $^{8)}$ 。

# 生殖·発生毒性

- ・雄ラットに0、195、390、780、1,560 mg/kg/day を6 週間(5 日/週)強制経口投与した試験で、195 mg/kg 以上の群の生殖器への投与に関連した影響はなかった $^6$ 。
- ・ラットに 0、425、850、 $1,700 \text{ mg/m}^3$  を 14 週間 (6 時間/日、<math>5 日/週) 吸入させた結果、 $425 \text{ mg/m}^3$  以上の群で生殖器への投与に関連した影響はなかった  $^{70}$ 。
- ・ラットに 0、425、850、1,275、1,700 mg/m³を妊娠 6 日から 15 日 (6 時間/日) まで吸入させ

た結果、850 mg/m³以上の群で赤血球数、ヘモグロビン濃度の減少、網状赤血球数の増加、脾臓重量の増加、ヘモグロビン尿、1275 mg/m³以上の群の脾臓で髄外造血、ヘモジデリン沈着を認めた。425 mg/m³群でも、1 匹でヘモグロビン尿、網状赤血球数の増加がみられた。胎仔では、850 mg/m³以上の群で骨格の変異(痕跡状肋骨、過剰肋骨など)を認めたが、この他に影響はなかった  $^{99}$ 。この結果から、母ラットの LOAEL を 425 mg/m³(ばく露状況で補正:106 mg/m³)、胎仔の NOAEL を 425 mg/m³(ばく露状況で補正:106 mg/m³)とする。

・ウサギに 0、530、1,060、2,100  $mg/m^3$  を妊娠 6 日から 18 日まで(6 時間/日)吸入させた結果、 2,100  $mg/m^3$  で体重増加の抑制を認めたが、黄体数、胚吸収等への影響はなかった。胎仔では、 生存率、体重、性比へのばく露に関連した影響はなく、奇形や骨格の変異もなかった  $^{10}$ 。この結果から、NOAEL を母ラットで 1,060  $mg/m^3$ (ばく露状況で補正:265  $mg/m^3$ )、胎仔で 2,100  $mg/m^3$ (ばく露状況で補正:525  $mg/m^3$ )以上とする。

## ヒトへの影響

・眼と皮膚を重度に刺激し、気道を刺激する。血液に影響を与え、血球の障害を生じる。皮膚の脱脂を起こす可能性がある。眼に発赤、痛み、吸入摂取では咳、咽頭痛、皮膚に付くと発赤、皮膚の乾燥を生じる<sup>11)</sup>。

### 発がん性

IARC の発がん性評価:評価されていない。

### 許容濃度

ACGIH	_
日本産業衛生学会	_

# 暫定無毒性量等の設定

経口ばく露については、ラットの中・長期毒性試験から得られた LOAEL 195 mg/kg/day (赤血球数、ヘモグロビン濃度の減少など)を採用し、ばく露状況で補正して 139 mg/kg/day とし、LOAEL であることから 10 で除し、試験期間が短いことから 10 で除した 1.4 mg/kg/day を暫定無毒性量等に設定する。

吸入ばく露については、ラットの中・長期毒性試験から得られた NOAEL 425  $mg/m^3$ (赤血球数、ヘモグロビン濃度の減少など)を採用し、ばく露状況で補正して  $76 mg/m^3$  とし、試験期間が短いことから 10 で除した  $7.6 mg/m^3$  を暫定無毒性量等に設定する。

#### 引用文献

- 1) SRC, Syracuse Research Corporation (2009): SRC PhysProp Database, (http://esc.syrres.com./interkow/physdemo.htm)
- 2) Yaws, C.L. (1994): Handbook of Vapor Pressure. Gulf Publishing Co.
- 3) Meylan, W. M. and P. H. Howard (1995): Atom/fragment contribution method for estimating octanol-water partition coefficients. J. Pharm. Sci. 84: 83-92.
- 4) Meylan, W.M., P.H. Howard and R.S. Boethling (1996): Improved method for estimating water solubility from octanol/water partition coefficient. Environ. Toxicol. Chem. 15: 100-106.
- 5) US National Institute for Occupational Safety and Health Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) Database.
- 6) Katz, G.V., W.J. Krasavage and C.J. Terhaar (1984): Comparative acute and subchronic toxicity of ethylene glycol monopropyl ether and ethylene glycol monopropyl ether acetate. Environ. Health Perspect. 57: 165-175.

- 7) Katz, G.V. (1987): Subchronic inhalation toxicity study of ethylene glycol monopropyl ether in the rat. Rochester, NY, Eastman Kodak Co., 9 June 1987 (HAEL No. 85-0105). Cited in: OECD (2004): SIDS initial assessment report for SIAM 19. Monoethylene glycol Ethers Category. CAS No: 2807-30-9, 111-76-2, 112-07-2, 112-25-4.
- 8) Bernard, L.G. (1989): A subchronic inhalation study of ethylene glycol monopropyl ether in rats using a functional observational battery and neuropathology to detect neurotoxicity. Rochester, NY, Eastman Kodak Company, 5 July 1989 (HAEL No. 88-0017). Cited in: OECD (2004): SIDS initial assessment report for SIAM 19. Monoethylene glycol Ethers Category. CAS No: 2807-30-9, 111-76-2, 112-07-2, 112-25-4.
- 9) Krasavage, W.J. and G.V. Katz (1985): Developmental toxicity of ethylene glycol monopropyl ether in the rat. Teratology. 32: 93-102.
- 10) Krasavage, W.J., R.S. Hosenfeld and G.V Katz (1990): Ethylene glycol monopropyl ether: a developmental toxicity study in rabbits. Fund. Appl. Toxicol. 15: 517-527.
- 11) IPCS (2003): International Chemical Safety Cards. 0607. Ethylene glycol monopropyl ether.